

外来魚採捕を目的とした沖曳網に混獲されるヒウオの状況

久米弘人

1. 目的

秋に操業される外来魚採捕を目的とした沖曳網漁業にヒウオが混獲される情報があることから、その混獲状況や採捕されたヒウオの特徴等を調査した。

2. 方法

平成 29 年 11 月 8 日に、外来魚採捕を目的とした沖曳網漁業を操業している漁業者を備船し、野洲市菖蒲沖、大津市真野沖、沖島沖、近江八幡市宮ヶ浜沖で実施した(図 1)。採捕に用いた沖曳網は、図 2 の網に片側 200m のロープで、曳網速度は 0.3~0.4m/秒であった。菖蒲沖、真野沖では、アンカー位置は変えず、曳網する方向を変え 2 回ずつ、沖島沖、宮ヶ浜沖は 1 回ずつ曳網した。

混獲されたヒウオは曳網ごとに尾数、体型を測定し、一部は耳石を取り出し、その日周輪からふ化日を推定した。

3. 結果

調査したすべての地点でヒウオの混獲が確認されたが、採捕された尾数は、1 曳網あたり 95 尾から 3,473 尾と大きく変動した。平均体長は 27.3mm から 33.1mm で全体の平均は 30.3mm となった(表 1)。ふ化日については、213 個体から耳石を取り出し、ふ化日を推定したところ、9 月 1 日から 10 月 25 日までにふ化したヒウオが採捕され、9 月生まれが全体の 74.2%であった(図 3)。本調査後の 11 月 14 日、17 日に実施したヒウオ生息状況調査での平均体長は 24.4mm であったことから、秋の沖曳網で混獲されるヒウオはヒウオ曳調査で採捕されるものよりも大型のものが採捕されることがわかった。



図 1 採捕地点位置図

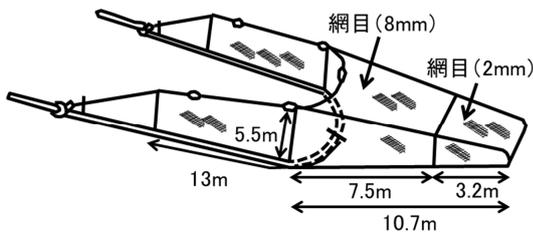


図 2 調査に用いた沖曳網

表 1 ヒウオ採捕結果

	採捕尾数	平均体長(mm)	標準偏差
菖蒲1	95	27.3	7.7
菖蒲2	218	33.1	7.3
真野1	673	32.7	7.2
真野2	774	30.1	5.8
沖島	203	27.5	5.2
宮ヶ浜	3,473	31.0	4.7
全体	5,436	30.3	6.8

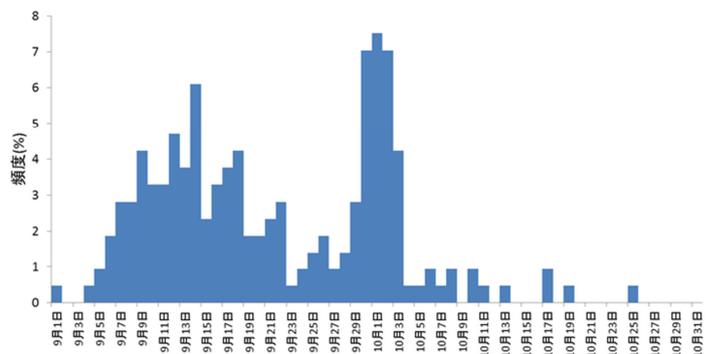


図 3 沖曳網で採捕されたヒウオのふ化日組成 (N=213)